

村内出土縄文土器一覧と主な出来事

※村史年表より引用、一部加筆

1 草創期 16,500 年～11,200 年前 (12,000 年～ 9,000 年前)

- ・ 最古の土器群が出土。無文土器、隆線文土器、爪形文土器、多縄文土器などがある。尖底あるいは丸底の深鉢が多い。局部磨製石斧、尖頭器等新しい道具が作られ、土器や弓矢が発明される。例) 大平山元 (1)、長者久保遺跡
- ① 隆起線文土器出土 (表館 (1)、発茶沢 (1) 遺跡)。
 - ・ この隆起線文土器の出土により、その文化圏が汎日本的に拡大していたことが分かった。

2 早期 11,200 年～ 7,000 年前 (9,000 年～ 6,000 年前)

- ・ 尖底の深鉢が多い。南部地方に遺跡が多い。
- ① 日計式土器出土 (大石平 (1)、表館 (1) 遺跡)
 - ・ 日計形押型文土器文化が現れる。
- ② 白浜・小船渡平式土器出土 (上尾駁 (2) B 地区、表館 (1) 遺跡)。
 - ・ 貝殻沈線文系土器文化が現れる。
- ③ 吹切沢・早稲田 I・II 類式土器 (新納谷 (1)、表館 (1)、発茶沢 (1)、大石平 (1) 遺跡)、ムシリ I 式土器 (約 7,000 年前) 出土 (表館 (1)、発茶沢 (1) 遺跡)。
 - ・ 縄文海進が進み、漁労活動が活発化し、貝塚が形成される。例) ムシリ遺跡
- ④ 表館 IV 群式土器 (表館 (1)、発茶沢 (1) 遺跡)、赤御堂式土器出土。(上尾駁 (1) A 地区、表館 (1) 遺跡)
 - ・ 縄文系土器文化が始まる。
- ⑤ 早稲田 V 類式土器 (唐貝地貝塚、表館 (1)、上尾駁 (1) 遺跡 A 地区)、表館 IX 群式土器出土。(表館 (1))
 - ・ 表館 (1) 遺跡出土の黒曜石は、主に北海道産で、北海道との交流を裏付けている。
 - ・ 末葉に、大型住居が出現。定住化が進み、集落が大きくなる。

3 前期 7,000 年～ 5,500 年前 (6,000 年～ 5,000 年前)

- ・ ますます温暖化が進み、多くの入り江や湾が見られるようになる。
- ・ いろいろな種類の縄文施文の土器が発達する。
- ① 表館 X 群式土器出土。(発茶沢 (1)、表館 (1)、幸畑 (7))
- ② 表館 XII 群式土器出土。(表館 (1))
- ③ 表館 XIII 群式土器出土。(発茶沢 (1)、表館 (1))
- ④ 長七谷地 III 群式土器出土。(表館 (1))
- ⑤ 表館・芦野 I 式土器出土。(弥栄平 (4)、発茶沢 (1)、大石平 (1))
- ⑥ 早稲田 6 類土器出土。(上尾駁 (1) A・C 地区、幸畑 (7)、上尾駁 (2) A 地区、鷹架、大石平)
 - ・ 後半に、円筒土器文化が開花し、平底の縄文土器が一般化する。
- ⑦ 円筒下層 a 式・b 式土器出土。(坊主沢、唐貝地貝塚)
- ⑧ 円筒下層 b 式土器出土 (上尾駁 (1) C、中志貝塚)
- ⑨ 円筒下層 d₁ 式土器出土 (上尾駁 (1) C、唐貝地 B)
- ⑩ 円筒下層 d₂ 式土器出土 (上尾駁 (1)、富ノ沢 (2))

4 中期 5,500 年～ 4,100 年前 (5,000 年～ 4,000 年前)

- ・ 引き続き深鉢が中心だが、浅鉢や壺がみられるようになる。口縁が波状のもの、大きな把手が付くものが

ある。円筒上層式土器群から東北南部の大木式土器の影響を受けるものに変遷し、摩消縄文もみられる。

- ① 円筒上層 a 式土器出土（上尾駁（1） C）
- ② 円筒上層 b 式土器出土（唐貝地、中志、沖付（2））
- ③ 円筒上層 c 式土器出土（上尾駁（1） C、富ノ沢（2））
- ④ 円筒上層 d 式及び 式土器出土（上尾駁（1） C、富ノ沢（1）・（2））
 - ・ 円筒土器文化の富ノ沢（2）遺跡 A 地区の大集落が衰退し、C 地区に大木式土器文化の大集落が出現する。
- ⑤ 大木 8 b 式土器出土（富ノ沢（2））
- ⑥ 大木 9 式土器出土（富ノ沢（1）・（2）、弥栄平（2））
- ⑦ 大木 10 式土器出土（大石平（1）、富ノ沢（1）・（2）、弥栄平（1））
 - ・ 後半から各地で大規模な集落が形成されるようになり、大型で豪華な土器がつくられるようになる。ヒスイ、琥珀、黒曜石石器、アスファルト等の出土によって、現在の新潟、岩手、北海道、秋田等との交易、伝播が継続的に行われていたと考えられる。地床炉の他、いろいろな形の炉が現れ大きくなり、東北南部から影響を受けたとみられる複式炉に発展する。
 - ・ 大規模集落の発展と衰退現象がみられる。（富ノ沢（2）遺跡 A 地区と C 地区）

5 後期 4,100 年～ 3,000 年前（ 4,000 年～ 3,000 年前）

- ・ 縄文海進が終わり、海退現象が進む。
 - ・ 後期の土器には縄文ではない文様を施文した土器がある。磨消縄文が多い。また、土器の機能化が進み深鉢以外にも壺（甕棺・切断蓋つきも含める）・注口・浅鉢・台付鉢・ミニチュア釣手・香炉形等多種多様化したものが作られる。青森県を中心として、改葬甕棺土器を伴う特殊な葬制が存在する。集落の分散化。
- ① 牛ヶ沢式土器出土（大石平（1）、上尾駁（2） B・C）
 - ② 沖付式土器出土（沖付（2）、大石平（1））
 - ・ 沖付（2）遺跡から狩猟文土器片が出土。狩猟文土器は、牛ヶ沢式がほとんどである。
 - ③ 弥栄平式土器出土（弥栄平（1）、大石平、上尾駁（1））
 - ・ 弥栄平（1）遺跡から土器や甕棺（十腰内 I 式直前の様式）と共に 20 歳くらいの女性の人骨が出土。
 - ・ 十腰内土器文化が発展する。
 - ④ 十腰内 I 式土器が出土（大石平（1）、上尾駁（2） B・C 弥栄平（2）・（4）、沖付（2））
 - ⑤ 十腰内 II 式土器出土（大石平（2））
 - ⑥ 十腰内 V 式土器出土（上尾駁（2） A）
 - ・ 大石平遺跡から、全国初の出土の手形足形土板や国内最大の赤漆彩色切断壺型土器が出土。各遺跡から鐸形・動物形・キノコ形・クツ形・三角形・円板状等用途不明土製品が多数出土。信仰にかかわるものと考えられている。環状列石が作られる。

6 晩期 3,000 年～ 2,200 年前（ 3,000 年～ 2,300 年前）

- ・ 亀ヶ岡文化が栄える。土器の形は、深鉢・鉢・浅鉢・皿・壺・注口土器・香炉形土器など多様化する。三叉文・羊歯状文・雲形文・工字文などの文様を持ち、漆を塗ったものや研磨された美しい土器が多い。
 - ・ 集落から離れたところに墓地が作られる。
- ① 大洞 A 式土器が出土（上尾駁（1） C）
 - ② 大洞 B 式土器出土（表館（1））
 - ③ 大洞 B・C 式土器出土（大石平（1））
 - ④ 大洞 C₁ 式土器出土（上尾駁（1） C、表館（1））
 - ⑤ 大洞 C₂ 式土器出土（上尾駁（1） C、大石平（1））
 - ・ 上尾駁（1） C 地区は、晩期の大洞 C₁～C₂ 式期の土壙墓が 21 基発掘されるが、集落は未発見。

※「大洞」は、岩手県の貝塚から採用された土器型式名。また、「亀ヶ岡」は、木造町亀ヶ岡にちなんで呼ばれ、

その分布圏は東日本で、本県が中心地域であった。